

キリ番は、価格を引き寄せない [F011]

キリ番を **25 pips** ずらしただけの、名前も意味も無い水準の方が、八つのセルすべてで触れた率が高い — 距離をそろえても、キリ番の方が高かったのは **20 帯のうち 6**（偶然なら **10**）であり、終値とキリ番の距離は無作為な場合より **0.2186 pips** 遠い

山岸 勇輝（Yuuki YAMAGISHI）／Independent Researcher

ORCID 0009-0006-8587-3450

2026年9月／CC BY 4.0

要旨

本稿が問うのは、キリのいい数字が価格を引き寄せるのか、である——答えは、引き寄せない。新しい数学定理も新しい法則も主張しない。

第一に、50 pips 刻みのキリ番に、その日のうちに触れた率の中央は **68.1877%** である。一方、同じ 50 pips 刻みを **25 pips** ずらしただけの、名前も意味も無い水準では **70.3728%** である。差は **-2.1851** ポイントで、偽の方が高い（第3節）。

第二に、これが本稿の芯である。八つのセル（四銘柄×上下）すべてで、偽の水準の方が触れた率が高かった。しかも偽の水準の方が、始値からの距離の中央がわずかに遠い（**0.2142** 対 **0.2085**）にもかかわらずである（第3節）。

第三に、距離の五分位に切って同じ帯の中で比べると、キリ番の方が高かったのは **20 帯のうち 6** である。偶然なら **10.0** なので、偶然を下回っている。差の中央は **-1.7972** ポイントである（第4節）。

第四に、触れたあとに反対へ真の値幅の半分だけ戻る率は、キリ番 **34.1199%**・偽 **33.9213%** で、差は **+0.1986** ポイントである。「キリ番では跳ね返る」も成立しない（第3節）。

第五に、 終値とキリ番の距離を測ると、平均は無作為な場合の **12.5 pips** に対して **+0.2186 pips** 遠い。偽の水準との距離は逆に **-0.2186 pips** 近い。「大台で引ける」という形の引き寄せは、符号が逆向きに出ている（第5節）。

第六に、足の中まで独立な正規増分で作った合成系列で同じ測定をすると、触れた率の差の中央は **-0.5291** ポイント、絶対値の中央は **0.9436** ポイントである。合成乱数にはキリ番も大台も無いのに、同じ率が出る（第7節）。

本稿の射程（**scope note**）：新しい数学定理も新しい法則も主張しない——価格の刻み、真の値幅、ランダムウォークはすべて既知である。特定の商材や提唱者を論じない——実在の教材、その著者、販売元は主題ではなく、一切名指さない。扱うのは公知の言い回しそのものである。売買を論じない——本稿が測るのは触れた率・跳ね返り率・終値の距離・方向の情報であって、手数料・約定・資金管理を含む売買の成績ではない。射程は日中・少数銘柄に限る——四銘柄・六年・1時間足の測定である。月次の時系列モメンタム（数十市場・保有1~12ヶ月）は学術的に文書化されており、本稿はそれを否定しない。刻みを **50 pips** と **100 pips** に固定する——10 pips 刻みや、銘柄ごとに意識される特定の水準は扱わない（第9節）。注文板を見ていない——「大台に注文が溜まる」という主張のうち、板に実際に注文があるかどうかは、価格の足からは測れない。本稿が否定したのは価格の側に現れる引き寄せであって、板の中身ではない。予測を主張しない。既刊との関係：本系列は、率を報告するときに、それが偶然なら何%になるかを必ず併記する。F008 は偽の比率を同じ帯に置き、F009 は名前の無い水準を同じ日から作った——本稿は同じ手を、キリ番に当てる。加えたのは、間隔をそろえたまま半分ずらすという作り方、終値の距離を無作為な場合の値と並べたこと、偽の方が高かったセルの数を数えたことである。

1. 記法と問い

「キリのいい数字は意識される」「大台には注文が溜まる」という言い方がある。

呼ばれ方	引き方
大台	100 pips ごと
キリ番	50 pips ごと
本稿の偽の水準	キリ番を 25 pips ずらしたもの

観察 1.1： ⚠️ 「キリ番に触れた」という観察だけでは何も言えない。価格は動くので、近くにある水準には触れる。キリ番は 50 pips ごとに必ずあるので、必ずどれかが近くにある。

観察 1.2： 決着させるには、同じ間隔で、意味の無い水準を置けばよい。キリ番を 25 pips ずらすと、間隔は 50 pips のまま、キリのよさだけが消える。差が出なければ、キリ番に引き寄せは無い。

観察 1.3： ⚠️ ここで測れないものを先に言う。注文板の中身は価格の足からは見えない。「大台に注文が溜まっている」という主張そのものは、本稿の射程の外である。本稿が測るのは、その溜まりが価格の動きに現れるかである。

問い：キリ番は、キリ番でない水準より、価格を引き寄せるのか。

2. 測る量と設計を、先に書く

設計（走らせる前に宣言し、実行時に変えていない）

項目	決めたこと
日の区切り	協定世界時の 0 時。足が 12 本に満たない日は使わない
キリ番	50 pips 刻み。大台は 100 pips 刻み
偽の水準	同じ 50 pips 刻みを 25 pips ずらしたもの
取り方	その日の始値から、上と下それぞれに最も近い一本
距離	絶対値（水準 - その日の始値）÷ ATR（前日までの 14 日の真の値幅の平均）
触れた率	その日のうちに、どれかの足の高安がその水準を挟んだ割合
跳ね返り率	触れたあと、反対へ真の値幅の 0.5 倍戻った割合
終値の距離	その日の終値と、最も近い水準との距離（pips）
方向の情報	水準に触れた足から 24 本先までの、跳ね返りの向きへの値動き（pips）
足	1 時間足・中値・完成足のみ
銘柄	USDJPY・EURUSD・GBPUSD・XAUUSD
期間	2019–2024。評価 2022–2024

観察 2.1： ⚠️ キリ番と偽の水準は、間隔も向きの取り方も完全に同じである。違うのは位置が 25 pips ずれていることだけで、その結果としてキリがよくなる。

観察 2.2： ⚠️ ATR はその日の値を使わない。前日までの 14 日から作る。

観察 2.3： ⚠️ 方向の信号は、水準に触れた足に置く。触れる前の足に置くと、「水準へ向かって動いた」ことが条件に入り、その逆に賭ければ必ず負ける。

1 pip は USDJPY が **0.01**、EURUSD と GBPUSD が **0.0001**、XAUUSD が **0.1** である。日数は USDJPY・EURUSD・GBPUSD が **1,555** 日（評価 **778** 日）、XAUUSD が **1,524** 日（評価 **764** 日）である。

3. キリ番と、ずらしただけの水準を並べる ― これが分離子である

計算 3.1 触れた率と跳ね返り率（評価期間）

銘柄	種類	向き	日数	距離 ÷ ATR	触れた率	跳ね返り率
USDJPY	キリ番	上	778	0.1785	71.0797%	30.3797%
USDJPY	キリ番	下	778	0.1866	69.7943%	34.0700%
USDJPY	偽	上	778	0.1982	73.3933%	32.2242%
USDJPY	偽	下	778	0.1846	71.3368%	35.1351%
USDJPY	大台	上	778	0.3861	48.9717%	26.7717%
USDJPY	大台	下	778	0.3727	50.7712%	32.1519%
EURUSD	キリ番	上	778	0.3118	56.2982%	34.9315%
EURUSD	キリ番	下	778	0.3107	58.6118%	29.3860%
EURUSD	偽	上	778	0.3053	59.7686%	33.1183%
EURUSD	偽	下	778	0.3229	61.5681%	32.9854%
EURUSD	大台	上	778	0.6498	33.1620%	32.5581%
EURUSD	大台	下	778	0.6208	37.5321%	25.3425%
GBPUSD	キリ番	上	778	0.2304	66.5810%	34.1699%
GBPUSD	キリ番	下	778	0.2580	65.2956%	33.8583%
GBPUSD	偽	上	778	0.2578	66.7095%	36.8015%
GBPUSD	偽	下	778	0.2302	69.4087%	32.9630%
GBPUSD	大台	上	778	0.4690	44.8586%	37.8223%

GBPUSD	大台	下	778	0.4823	44.3445%	31.0145%
XAUUSD	キリ番	上	764	0.0965	86.2565%	36.1153%
XAUUSD	キリ番	下	764	0.0924	85.2094%	37.3272%
XAUUSD	偽	上	764	0.0884	87.8272%	34.7243%
XAUUSD	偽	下	764	0.0948	85.8639%	39.1768%
XAUUSD	大台	上	764	0.1845	73.8220%	31.9149%
XAUUSD	大台	下	764	0.1848	71.0733%	33.5175%

計算 3.2 種類ごとの中央

種類	触れた率の中央	跳ね返り率の中央	距離の中央
キリ番	68.1877%	34.1199%	0.2085
偽	70.3728%	33.9213%	0.2142
大台	46.9152%	32.0334%	0.4275

観察 3.3：触れた率の差は **-2.1851** ポイントで、偽の方が高い。そして八つのセルすべてで偽の方が高かった。

観察 3.4：⚠ 偽の水準の方が、始値から遠い（距離の中央 **0.2142** 対 **0.2085**）。遠いのに触れた率が高い。引き寄せがあるなら向きが逆である。

観察 3.5：跳ね返り率の差は **+0.1986** ポイントで、ほぼ同じである（**34.1199%** 対 **33.9213%**）。
「キリ番では跳ね返る」も成立しない。

観察 3.6：大台（100 pips 刻み）の触れた率は **46.9152%** で、キリ番より低い。⚠ これは大台が特別だからではなく、距離の中央が **0.4275** と二倍遠いからである。

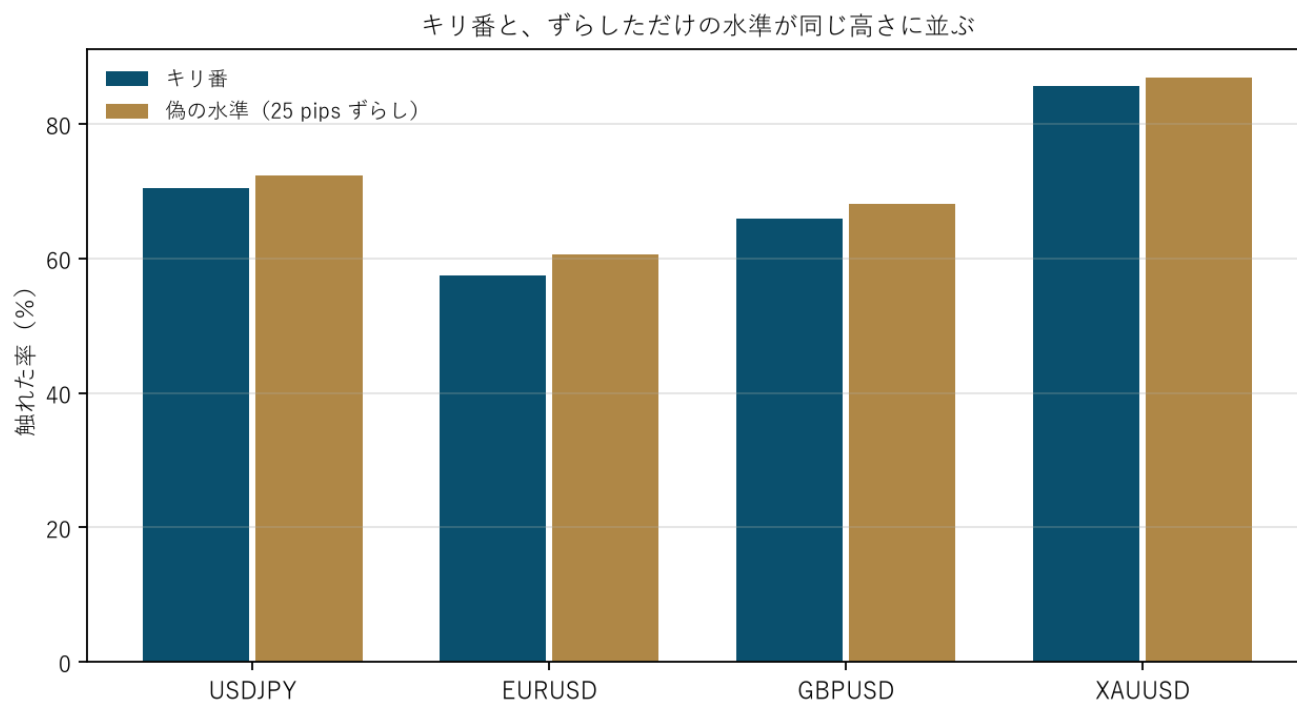


図1：銘柄ごとの触れた率（上下の平均）。濃い棒（キリ番）が薄い棒（偽）より低い。

4. 距離をそろえて比べる

計算 4.1 距離の五分位の中で比べる（評価期間）

銘柄	帯	距離 ÷ ATR	キリ番 件数	キリ番	偽 件数	偽	差（ポイント）
USDJPY	1	0.0404	311	93.8907%	312	95.5128%	−1.6221
USDJPY	2	0.1120	314	82.8025%	308	82.1429%	+0.6597
USDJPY	3	0.1869	319	71.4734%	303	70.9571%	+0.5163
USDJPY	4	0.2650	300	62.0000%	322	65.2174%	−3.2174
USDJPY	5	0.4074	312	41.6667%	311	48.2315%	−6.5648
EURUSD	1	0.0625	291	90.0344%	332	93.3735%	−3.3391
EURUSD	2	0.1883	331	71.9033%	291	76.2887%	−4.3853
EURUSD	3	0.3140	330	54.8485%	292	59.9315%	−5.0830
EURUSD	4	0.4436	302	42.7152%	320	44.6875%	−1.9723
EURUSD	5	0.6445	302	27.8146%	321	29.2835%	−1.4689
GBPUSD	1	0.0515	307	91.8567%	316	96.2025%	−4.3459
GBPUSD	2	0.1460	313	82.4281%	309	81.5534%	+0.8747
GBPUSD	3	0.2431	317	69.4006%	305	68.5246%	+0.8760
GBPUSD	4	0.3601	311	51.4469%	311	51.7685%	−0.3215
GBPUSD	5	0.5101	308	34.4156%	315	42.2222%	−7.8066
XAUUSD	1	0.0196	306	97.0588%	305	95.7377%	+1.3211
XAUUSD	2	0.0552	303	90.0990%	308	91.5584%	−1.4594

XAUUSD	3	0.0925	307	84.6906%	305	89.8361%	−5.1455
XAUUSD	4	0.1305	309	77.6699%	301	83.0565%	−5.3866
XAUUSD	5	0.1894	303	79.2079%	309	74.1100%	+5.0979

観察 4.2：差の中央は **−1.7972** ポイント、絶対値の中央は **2.5948** ポイント、幅は **−7.8066** から **+5.0979** である。

観察 4.3：ギリ番の方が高かったのは **20 帯のうち 6** である。偶然なら **10.0** なので、偶然を下回っている。引き寄せがあるなら 10 より多くなるはずである。

観察 4.4：⚠ 差の幅は **13** ポイント近くあり、符号も帯ごとに入れ替わる。これは効果ではなく、一帯あたり 300 件前後という件数の揺らぎである。⚠ 揺らぎが効果より大きいときは、どの一帯を取り出しても意味が無い。

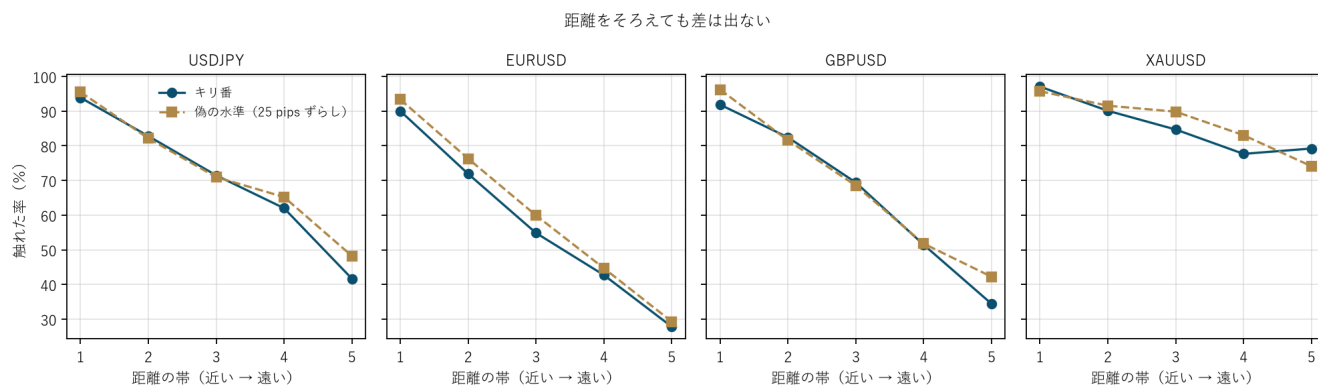


図2：銘柄ごとに、距離の帯（近い → 遠い）に対する触れた率。ギリ番（濃い実線）と偽（薄い破線）が重なる。

5. 終値はギリ番の近くで終わるか

計算 5.1 終値と最も近い水準の距離（評価期間・pips）

銘柄	ギリ番 中央	偽 中央	ギリ番 平均	偽 平均	無作為なら
USDJPY	13.2000	11.8000	13.0005	11.9995	12.5000
EURUSD	12.8250	12.1750	12.7450	12.2550	12.5000
GBPUSD	12.5000	12.5000	12.6923	12.3077	12.5000
XAUUSD	12.8675	12.1325	12.6304	12.3696	12.5000

観察 5.2：⚠ 刻みが 50 pips なので、終値が一樣に散らばるなら、最も近い水準との距離の平均は 12.5 pips になる。これが基準線である。

観察 5.3：ギリ番との距離の平均は、無作為な場合より 0.2186 pips 遠い。偽の水準との距離は逆に 0.2186 pips 近い。⚠ 引き寄せがあるなら、ギリ番との距離だけが 12.5 より小さくなるはずである。符号が逆に出ている。

観察 5.4：⚠ ただし 0.2186 pips という差は、スプレッド（0.30 から 3.67 pips）より小さい。
★ 本稿はこれを「ギリ番が価格を遠ざける」とは読まない。読むべきは「引き寄せが見つからなかった」であって、「反発が見つかった」ではない。

観察 5.5：四銘柄すべてで同じ向き（ギリ番の方が遠い）である。⚠ 符号がそろうことと、雑音と区別できることは別である。

6. 触れた足から先の方向の情報

計算 6.1 水準に触れた足に信号を置く（評価期間）

銘柄	種類	件数	D (pips)	Dd (日次平均)	日次 t	スプレッド	買/売
USDJPY	キリ番	1,066	-2.9051	-14.0399	-5.32	0.70	514/552
USDJPY	偽	1,105	-0.4553	-12.5107	-4.76	0.70	535/570
EURUSD	キリ番	891	3.2300	-2.6786	-1.56	0.30	453/438
EURUSD	偽	941	1.9870	-4.1043	-2.57	0.30	476/465
GBPUSD	キリ番	1,022	-0.5125	-9.3316	-4.24	0.90	505/517
GBPUSD	偽	1,057	3.1725	-5.3558	-2.55	0.90	538/519
XAUUSD	キリ番	1,269	-0.8251	-19.6345	-4.11	3.67	611/658
XAUUSD	偽	1,288	-1.8262	-21.2039	-4.77	3.67	618/670

観察 6.2：方向の情報の中央は、キリ番 **-0.6688 pips**・偽 **+0.7658 pips** である。偽の方が良い。

観察 6.3：日次 t の絶対値が 2 以上のセルは、キリ番 4 のうち 3・偽 4 のうち 4 である。⚠ 偽の水準の方が「有意」になっている。

観察 6.4：⚠ これは偽の水準に情報があるという意味ではない。両方とも Dd が大きく負で、どちらも「水準に触れたあと跳ね返りに賭けると負ける」という同じ形を出している。キリ番と偽の区別ではなく、跳ね返りに賭けること自体の性質である。

観察 6.5：⚠ この測定は $h=24$ 本先を見ており、隣り合う観測が重なりうる。ただし件/日が 1.0 から 2.0 なので、日をまたぐ重なりは限られる。それでも Dd と D の符号が食い違っているセルがあるので、どちらか一方だけを書いてはいけない。

7. 基準線 — 合成乱数にはキリ番も大台も無い

計算 7.1 足の中まで独立な正規増分で作った系列（10 系列・評価期間）

銘柄	種類	実測 触れた率	合成乱数	差（ポイント）
USDJPY	キリ番	70.4370%	70.9062%	− 0.4692
USDJPY	偽	72.3650%	71.0668%	+1.2982
EURUSD	キリ番	57.4550%	60.7069%	− 3.2519
EURUSD	偽	60.6684%	60.7712%	− 0.1028
GBPUSD	キリ番	65.9383%	70.4820%	− 4.5437
GBPUSD	偽	68.0591%	70.7005%	− 2.6414
XAUUSD	キリ番	85.7330%	86.3220%	− 0.5890
XAUUSD	偽	86.8455%	86.3743%	+0.4712

観察 7.2：実測と乱数の差の中央は **−0.5291** ポイント、絶対値の中央は **0.9436** ポイントである。

観察 7.3：⚠ 合成乱数には注文も心理もキリ番も無い。それでも同じ率が出る。したがって触れた率は、相場について何も言っていない。

観察 7.4：⚠ 合成乱数でもキリ番と偽の差が **−0.4692** から **+1.2982** と散らばる。この散らばりが、実測の差 **−2.1851** と同じ桁である。★ 実測の差を効果として読む前に、乱数でも同じ幅が出ることを見る。

8. 時間帯で分ける

設計：協定世界時で重ならない五区分に分ける。信号は第6節のキリ番である。

計算 8.1 五区分それぞれの方向の情報（評価期間）

銘柄	東京 0-7	ロンドン 7-12	重複 12-16	NY後半 16-21	夜間 21-24
USDJPY	-0.78 (t -1.49)	2.88 (t 0.32)	-7.67 (t -0.77)	-42.79 (t -2.46)	件数不足
EURUSD	1.30 (t 0.38)	0.92 (t 0.16)	7.89 (t 1.82)	12.39 (t 1.79)	件数不足
GBPUSD	-2.08 (t -0.89)	1.36 (t 0.06)	3.85 (t 0.72)	-13.09 (t -0.94)	件数不足
XAUUSD	0.05 (t -1.28)	-13.38 (t -0.86)	9.51 (t 0.58)	件数不足	件数不足

観察 8.2：日次 t の絶対値が 2 以上になったセルは 15 のうち 1 である。偶然なら およそ 0.7 セルなので、偶然と同じ程度である。

観察 8.3：⚠ 有意に見えたのは USDJPY の NY後半 ($-42.79 \cdot t - 2.46$) である。⚠ 本稿はこれを主張しない。四銘柄 × 五区分を試している以上、どれか一つがこう見えるのは当たり前である。

観察 8.4：⚠ 夜間帯は四銘柄とも、NY後半は XAUUSD が、件数不足で測れなかった。水準に触れるのは市場が動いている時間に偏るためである。

9. 限界

1. ★ 刻みを 50 pips と 100 pips に固定している。10 pips 刻みや、銘柄ごとに「意識される」とされる特定の水準（例えば歴史的な高値安値と一致するキリ番）は扱っていない。本稿が否定したのは、刻みとして機械的に引いたキリ番である。
2. ★ 注文板を見ていない。「大台に注文が溜まる」という主張のうち、板に注文があるかどうかは価格の足からは測れない。否定したのは、その溜まりが価格の動きに現れるかである。
3. 偽の水準の置き方は一通りである。25 pips ずらした。別のずらし方では数字が変わる。
⚠ ただし第4節は距離をそろえて比べているので、ずらし方には依らない。
4. 跳ね返りの判定を真の値幅の 0.5 倍に固定している。別の幅では跳ね返し率が変わる。⚠
キリ番と偽で同じ幅を使っているので、比較は成り立つ。
5. 第6節は $h = 24$ 本先を見ており、観測が重なりうる。件/日は 1.0 から 2.0 なので日をまたぐ重なりは限られるが、D と Dd の符号が食い違うセルがある。
6. 合成乱数は独立な正規増分である。ボラティリティの群れは入っていない。
7. 四銘柄・六年である。他の市場、他の期間について述べるものではない。

結び

キリ番には、その日のうちに **68.1877%** の割合で触れる。触れたあと **34.1199%** の割合で反対へ戻る。「意識されている」と読める数字である。

だが同じ 50 pips 刻みを 25 pips ずらしただけの、名前も意味も無い水準では、触れた率が **70.3728%**、跳ね返し率が **33.9213%** だった。八つのセルすべてで、偽の方が触れた率が高い。しかも偽の方が始値から遠い。

距離をそろえて比べても、キリ番の方が高かったのは **20 帯のうち 6**（偶然なら 10.0）である。終値との距離は、無作為な場合の **12.5 pips** に対して **0.2186 pips** 遠い。合成乱数でも同じ率が出る。

キリのよさは、価格の側に現れない。引き寄せられているのは価格ではなく、その数字が目に入りやすい私たちの側である。

そして本稿が測れたのは、価格の足に現れる分だけである。板に何が置かれているかについては、ここでは何も答えていない。

データと再現

データ	為替は Dukascopy 由来のティック（2019 年以降はミリ秒・bid・ask まで一致することを確認済み）。金は Dukascopy
期間	2019–2024（六年）。評価 2022–2024
銘柄	USDJPY・EURUSD・GBPUSD・XAUUSD
足	1 時間足・中値・完成足の終値のみ。ティックの無い足は作らない
日の区切り	協定世界時の 0 時。足が 12 本に満たない日は使わない
検算	<code>検算/F011.py</code> （ <code>--zu</code> で図も書き出す）。本文の数字はすべて <code>検算/F011_output.txt</code> から取っている
図	<code>図/F011_zu1</code> ・ <code>図/F011_zu2</code> （png・svg・英語版）
乱数の種	0～9 に固定。再実行しても同じ値が出る
土台の検査	<code>_ツール/auditBars.py</code> （足の先読み・夏時間・日の区切り）。記録は <code>_土台の検査.txt</code>

参考文献

- 山岸勇輝 (2026). 閾値は格子に属する [論文264]. Zenodo. 10.5281/zenodo.22169720
- 山岸勇輝 (2026). 表は当たっているのに、売買は負ける [論文423]. Zenodo. 10.5281/zenodo.22700114
- 山岸勇輝 (2026). 移動平均のクロスが見つける「周期」は、二本の期間の比が作っている [F001]. Zenodo. 10.5281/zenodo.22880428
- 山岸勇輝 (2026). 一目均衡表の雲は、二十六本先へ描いた過去である [F002]. Zenodo. 10.5281/zenodo.22880552
- 山岸勇輝 (2026). ボリンジャーバンドの σ 倍率は、触れる回数を変えて、方向を変えない [F003]. Zenodo. 10.5281/zenodo.22881085
- 山岸勇輝 (2026). RSI の「買われすぎ 70」は、自分が選んだ足種に属している [F004]. Zenodo. 10.5281/zenodo.22881156
- 山岸勇輝 (2026). MACD のゼロ交差は、移動平均のクロスと同じものである [F005]. Zenodo. 10.5281/zenodo.22881227
- 山岸勇輝 (2026). ストキャスティクスの %K は、レンジ内の位置そのものである [F006]. Zenodo. 10.5281/zenodo.22881505
- 山岸勇輝 (2026). ADX は方向を持たない量なので、方向を当てられない [F007]. Zenodo. 10.5281/zenodo.22881623
- 山岸勇輝 (2026). フィボナッチの比率に特権はない [F008]. Zenodo. 10.5281/zenodo.22881668
- 山岸勇輝 (2026). ピボットの水準に触る確率は、その水準までの距離の言い換えである [F009]. Zenodo. 10.5281/zenodo.22881708
- 山岸勇輝 (2026). 多時間軸をそろえても、そろえた分だけ件数が減る [F010]. Zenodo. 10.5281/zenodo.22891380